

平成 27 年度「オリンピック・パラリンピック教育モデル推進校」 事業実施報告書

実践事業	【 Ⅱ 障がい者や高齢者への理解 共生社会の形成 】		
学校名	京都府 立 加悦谷 高等学校	全校生徒数	354名
実践学年、部、講座等	第2学年3組（普通科アスリートスポーツコース） 29名 陸上競技部（1・2年生） 12名		
目 標 (ねらい)	オリンピズムの観点(○印)	友情 (○)	卓越 () 尊重 (○)
	支援学校生徒とのスポーツ交流を通して、障がい者理解を深め、他者への共感や思いやりの心を育てる。		
実践内容	<p>1 事前学習会 平成 27 年 11 月 9 日 (月) 5 限 於：本校視聴覚教室 交流をおこなうに当たり、学校の様子や交流の留意点などの講義。</p> <p>2 スポーツ交流会</p> <p>(1) 第 1 回 平成 27 年 11 月 30 日 (月) 5・6 限 於：与謝の海支援学校 3 種目 3 会場に分かれてのスポーツ交流。</p> <p>ア 卓球バレー：学校対抗戦 ＜感想より＞ 初めて卓球バレーをしたが、とても楽しかった。思ったよりもボールのスピードが速く、驚いた。支援学校の人たちは、強かった。</p> <p>イ 卓球：体幹トレーニング、的当て、ラリー形式。 ＜感想より＞ 支援学校の人たちは、思っていた以上に卓球が上手で楽しかった。少し緊張したけど笑顔で活動できた。</p> <p>ウ ソフトボール：ウォーミングアップ、キャッチボール、学校対抗戦。 ＜感想より＞ 思っていたよりも、支援学校の人たちが本格的で、楽しかった。一緒にキャッチボールすることができて良かった。</p> <p>(2) 第 2 回 平成 28 年 1 月 22 日 (金) 5・6 限 第 1 回とは違う種目を選択し、3 種目 3 会場に分かれ交流。</p> <p>ア 卓球バレー：学校対抗戦。その後交流戦。 ＜感想より＞ 前回よりコミュニケーションもとれて、一緒に競技を楽しむことができた。とても楽しく盛り上がった活動ができた。コースをうまく狙っていてすごい。</p>		



イ 卓球：トレーニング、的当て、ゲーム。

<感想より>

みんな卓球がうまくて一緒に楽しく活動することができた。準備や片付けも一緒にできて良かった。

ウ バasketボール：ウォーミングアップ、合同チームによるトーナメント戦。

<感想より>

合同チームだったので、ボールのスピードやシュートにつながるパスを出すなど、気配りをしながらゲームできた。点付けなども一緒に協力してできた。



3 陸上競技部 合同練習会

(1)第1回 平成27年12月7日(月)放課後ウォーミングアップ、ビルドアップ走、動きづくりのトレーニング、ラダー、80M走等を合同で行った。本校部員にとっては、アドバイスをを行うことで自分の動きを再確認でき、良い取り組みとなった。



(2)第2回 平成28年1月18日(月)放課後雨天のため、階段でのトレーニング、サーキットトレーニングを行った。慣れない動きに苦戦する支援学校の生徒に、「ファイト！」等の声掛けやアドバイスをする姿も見られた。



実施上の留意点等

- ・事前に授業の下見に行かせていただき、どのようなことができるのかを打ち合わせをした。
- ・配慮事項など、支援学校の先生に直接伝えていただくことで、生徒をその気にさせる。
- ・反省をさせることで、次の目標が立てられた。

主な成果(分析結果)

<第1回目を終えて>

思ったよりも支援学校の生徒が運動できるので驚いたという感想が多く、卓球バレーでは全く勝てないという経験をした。ソフトボールでは、自分達が楽しむだけではこの交流は成功ではないと感じていた。

<第2回目を終えて>

話しかけたり応援したり積極的に声かけをする姿やパスのコースや勢いなどを工夫する姿も見られ、成長が感じられた。自分達が「するスポーツ」だけでなく、周囲への気遣いをする事で相手も自分も楽しめる「支えるスポーツ」を肌で感じていた。

<意識の変化など>

支援学校の人たちは障がいがあり、全然運動を出来ないものだと思い込んでいたが、そうではないことがわかった。この活動で、障がいのある人とも距離が近くなった感じがしたし、見方も変わっていい体験になった。この交流で「笑顔」がつながりを持つための大切な方法だと思った。またこのような機会があればよいと思う。

主な課題等

・単発で終わらず、継続することが大切。2回では少なく、もう少し回数があるともっと良い取り組みができる。